

未来ノート

-202Xの君へ-

体操

白井健三

遊びから入った

挫折とロンバク

父と4つの約束

心に「おけと水」

人間として大切なこと

3人の子どもが体操選手を志すなかで、両親は指導者の立場は捨てて、あくまで親として接してきた。

直接指導することをさけたのは体操界で成功例が少なかったこともあるが、父・勝晃さん(58)は「学校で

勉強で戦い、放課後は体操で戦っている。親がコーチだと、自宅でもストレスを抱えこむことになりかねない」と考えた。

リラックスする場と決めた自宅は工夫した。子ども部屋にはエアコンもパソコ

ンも置かず、できるだけ簡素にした。居間に3人の表彰状やメダルを飾ったのは達成感に浸らせるためだ。自然に居間に出てきて、会話する流れを作った。

細かいことは言わず、奔放に育てたが、やんちゃ盛りりの3人を落ち着かせようと、勝晃さんは2003年に「白井家の約束」を3人と結んだ。健三(21)が6歳、長兄勝太郎(26)が12歳、次兄晃二郎(24)が9歳だった。

勝太郎がカレンダーの裏

に「うそはつかない、約束は守る、こそくな事はしない、物を大切にすると書き出し、全員で署名した。

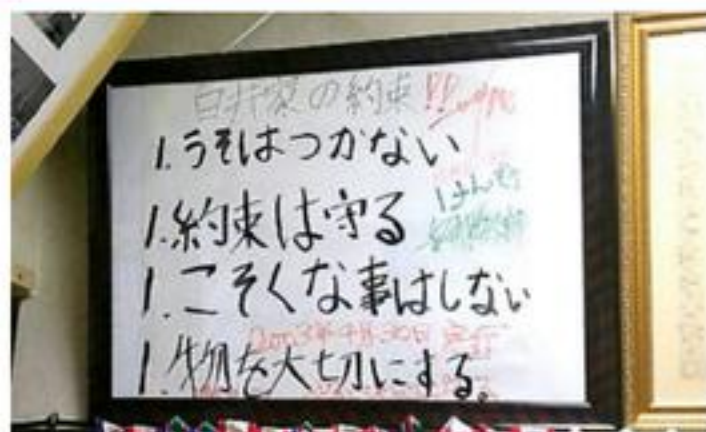
仕事で留守の多い父からの「体操選手以前に、人間として大切なことがある」というメッセージだった。

違う2人の兄は身近な目標だった。母の徳美さん(53)は「その分、一番負けず嫌いで頑固で甘え上手に育った」という。

たとえば、健三は試合中でも、内村航平(29)に平気で話しかける。「僕のスタイルは特殊だけど、学びたいという気持ちは理解してくれている。だから、遠慮してはダメ。航平さんにプラスがあるか心配だけど、こっちは大もうけですから。迷惑なところに入って取る後輩もありません」と取材に答える言葉遣いもユニーク。ひとと距離を一気に縮めるコミュニケーション能力の一方で、したたかな一面も併せ持つ。徳美さんは「甘えのツボを心得ている末っ子」という。

健三にとって、三つずつ

①「4つの約束」は現在も自宅の居間に。健三は当時6歳。ひらがなで「けんそう」とある。提供
②同じ時期に体操を始めた白井家の3兄弟。奥左が健三、手前が長兄の勝太郎、奥右が次兄の晃二郎。本人提供



◆「未来ノート」スクラップブックは、全国のASA(朝日新聞販売所)でお配りしています。インターネットの特設ページではイベントやスクラップブックについて詳しく紹介しています。「未来ノート 朝日新聞」で検索してください。